

2026年 第3四半期 決算説明会

2026年10月30日

コカ・コーラ ボトラーズジャパン
ホールディングス株式会社

代表取締役社長 カリン・ドラガン

代表取締役副社長 CFO ビヨン・イヴァル・ウルゲネス

(2026年10月30日 当社Webサイト掲載)



ハッピーなひとときを、
ボトルから。
We bottle happy moments.

Coca-Cola
BOTTTLERS JAPAN HOLDINGS INC.

コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社

2026年 第3四半期 決算説明会

2026年 第3四半期累計 業績

マーケティングアップデート

今後の見通し

本日のハイライト

- ❗ 第3四半期累計の事業利益は対前年79億円の増益。 飲料業界全体が記録的な悪天候やコスト増加の影響を受けるなか、利益にこだわった事業活動により、第3四半期も増益トレンドを継続。
- ❗ 販売数量は市場をアウトパフォームし続け、金額シェアはプラス成長を継続。
- ❗ 重点施策として、9月に価格改定を計画どおりに実施し、将来の収益基盤を強化。変革の取り組みも順調に進捗。
- ❗ 株主還元も着実に前進。すでに発表済みの株主還元拡充策に加え、このたび、発行済株式総数の4.1%相当の自己株式の消却を決定。
- ❗ 通期事業利益目標350億円に変更はなし。 第4四半期も、ヘッジ戦略等により中東情勢影響を想定の範囲内に収め、事業利益の増益を目指す。
- ❗ 引き続き、「Vision2030」の達成に向けた基盤強化や成長投資に取り組む。

2026年 第3四半期累計 業績

利益にこだわった事業活動により、第3四半期も事業利益の増益を達成

単位：百万円

	2026年 第3四半期 累計 実績	2025年 第3四半期 累計実績	増減	前年比
売上収益	673,935	683,523	-9,588	-1.4%
販売数量 (百万ケース)	376	381	-5	-1.4%
うち、清涼飲料販売数量 (百万ケース)	373	378	-5	-1.2%
売上原価	370,288	377,567	-7,279	-1.9%
売上総利益	303,647	305,957	-2,310	-0.8%
販管費	271,621	281,215	-9,593	-3.4%
事業利益	32,323	24,459	+7,864	+32.2%
営業利益 (△損失)	33,775	△70,060	+103,836	-
親会社の所有者に帰属する当期利益 (△損失)	19,623	△48,734	+68,357	-
EBITDA※	55,595	55,586	+9	+0.0%

※ EBITDA=事業利益+減価償却費

ベンディングとOTCが増益をけん引。フードサービスは力強く増収達成

単位：百万円

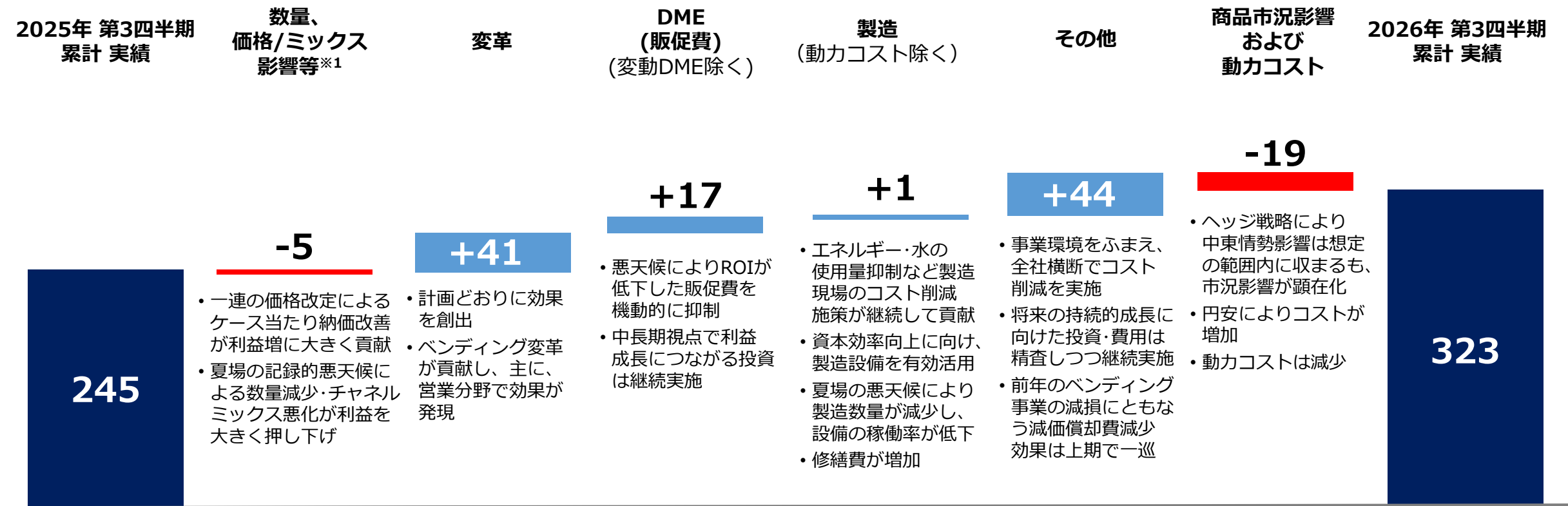
	2026年 第3四半期 累計 実績	2025年 第3四半期 累計実績	増減	前年比
販売数量 (百万ケース)※1	376	381	-5	-1.4%
うち、ベンディング事業	81	84	-3	-3.8%
うち、OTC事業※2	241	247	-5	-2.2%
うち、フードサービス事業	54	50	+3	+6.7%
売上収益				
ベンディング事業	293,796	305,696	-11,900	-3.9%
OTC事業	320,700	321,260	-560	-0.2%
フードサービス事業	36,413	33,301	+3,112	+9.3%
その他※3	23,026	23,267	-241	-1.0%
合計	673,935	683,523	-9,588	-1.4%
セグメント利益※4 (△損失)				
ベンディング事業	14,830	8,310	+6,520	+78.5%
OTC事業	44,300	40,478	+3,821	+9.4%
フードサービス事業	6,113	6,343	-231	-3.6%
その他※5	△32,919	△30,673	-2,247	-
合計	32,323	24,459	+7,864	+32.2%

※1 販売数量は、コカ・コーラ社製品(一部例外を除く)を対象に集計しており、当社の子会社が販売する他社製品の数量等は含まれておりません。
※2 スーパーマーケット、ドラッグストア・量販店、コンビニエンスストア、オンライン等のOTC(手売り)チャネルにおける事業のこと。また、アルコール飲料を含んでおります。
※3 報告セグメントに帰属しない事業活動から生じた売上収益を表示しており、国内の他のコカ・コーラボトラー社への販売取引等が含まれております。
※4 セグメント利益の合計は、連結損益計算書の事業利益と一致しております。 ※5 報告セグメントに帰属しない事業活動から生じた利益および本社等共通費が含まれております。

第3四半期(7-9月)
の業績は参考資料
をご覧ください。



価格改定や変革の効果を創出しつつ、機動的なコスト削減により増益継続



(単位：億円)	第3四半期 累計 実績	対前年 増減
設備投資※2	126	-21
減価償却費	233	-79

単位：億円
(単位未満四捨五入)

※1 営業活動にともなう限界利益の増減。変動費、IFRSによる売上控除等を含んでおります。

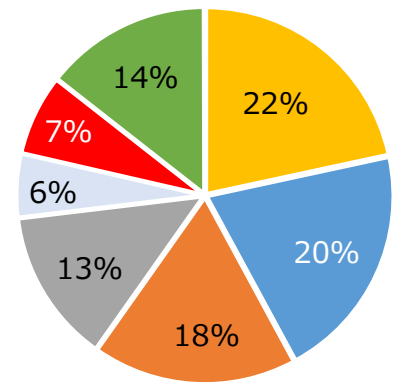
※2 IFRS16が適用されるリース取引に係る投資額は上記の数値には含まれておりません。

悪天候のなか販売数量は市場を上回り、ケース当たり納価の改善も達成

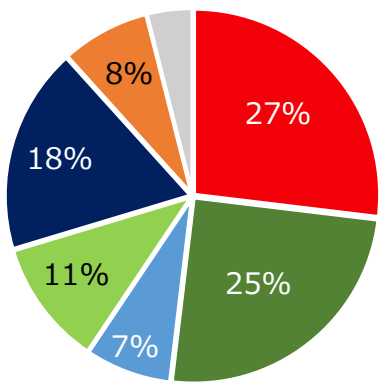
- 販売数量は、悪天候の影響を受けるも、市場をアウトパフォーム。価格改定効果でケース当たり納価が改善。
- VMは、Coke ON®を使ったキャンペーン等がシェア上昇に貢献。SMは、コーヒーは増加するも、悪天候による水・スポーツの減少が響いた。D&Dは、ニーズを捉えた活動で炭酸中心に成長。CVSは、コーヒーの販促適正化が数量に影響も、利益トレンドは好調。オンラインは、水の大型PET増加がケース当たり納価に影響も、定期購入者の増加により、数量は安定成長。FSは、新規顧客獲得と既存顧客の売上拡大がともに順調。
- 炭酸は、「コカ・コーラ」が継続して成長をけん引。茶系は、価格改定の影響を受けるも、カテゴリー全体でカバーし対前年プラス。スポーツ・水は、天候不順が影響し、コーヒーは、価格改定と販促費抑制が影響。

販売数量：-1%

チャンネル	数量	ケース当たり納価(円)
ベンディング (VM)	-4%	+33
スーパーマーケット (SM)	-4%	+33
ドラッグストア・量販店 (D&D)	前年並み	+32
コンビニエンスストア (CVS)	-6%	+72
リテール	+4%	+79
オンライン	+5%	-37
フードサービス (FS)	+7%	+27



カテゴリー	数量
炭酸	+3%
茶系	+2%
スポーツ	-16%
水	-4%
コーヒー	-3%
果汁	+5%



(注) 販売数量にはアルコール飲料は含まれておりません。ケース当たり納価にはIFRS適用による売上控除は含まれておりません。
また、VMのケース当たり納価は、子会社等への卸販売分を除いて算出しております。
販売数量・売上集計方法の標準化を進めており、過去の説明会資料で提供したデータと若干の相違が発生することがあります。

パッケージ別の販売数量は参考資料をご覧ください。
第3四半期(7-9月)の販売数量は参考資料をご覧ください。

収益性重視の営業活動により、金額シェア・店頭小売価格がともに上昇

- ❖ チャンネルトータルの金額シェアは対前年0.7ポイントのプラス。業界に先駆け実施した価格改定が9月のシェアに影響も、数量は市場をアウトパフォームし続け、金額シェア成長をけん引。
- ❖ ベンディングは、強固な消費者基盤やCoke ON[®]アセット活用などにより、金額シェアが上昇。OTCでは、価格改定がシェアに影響も、チャンネルごとの収益性重視の営業活動により、金額シェアは微減に留まった。
- ❖ 当社製品は、業界平均に対し価格プレミアムを維持。店頭小売価格は、チャンネル・カテゴリーミックスの影響を受けるなか、小型PET・大型PETともに、一連の価格改定により対前年プラスを継続。価格改定を実施した9月の店頭小売価格は、小型・大型PETともに、対前年4～5円上昇(対象外の水・スポーツ除く)。

市場シェア (1-9月、対前年、ポイント)	金額	数量
トータル	+0.7	+0.6
うち、ベンディング	+0.6	+1.8
うち、手売りチャンネル (OTC)	-0.2	-0.1

出典：日本コカ・コーラ調べ (全国)

店頭小売価格 (1-9月、円/本)	業界平均比	前年比
小型PET	+7.7	+1.9
大型PET	+33.3	+0.3

出典：インテージSRI+ 清涼飲料水市場 小型PET製品(351~700ml)および大型PET製品(1.251L~)
当社販売エリア 2026年1月~9月
業界平均比：当社平均販売単価/本および業界平均販売単価/本の比較
前年比：当社平均販売単価/本の前年比較

利益重視の営業活動により、悪天候下でも増益トレンドを継続

強固な成長基盤が
下支えし、
数量は市場を
アウトパフォーム

- ❖ コア製品における飲用機会を訴求したマーケティング活動や、カスタマー限定製品の発売等により売場を強化。
- ❖ フードサービスでは、新規顧客獲得活動等が順調。屋内施設での高いプレゼンスが寄与し、悪天候下でも販売は安定。
- ❖ オンラインでは、品揃え強化や重点施策である定期便ユーザー獲得等が堅調な数量成長に貢献。
- ❖ Coke ON®を通じて「ポケモン GO」とのコラボキャンペーンを実施するなど、自動販売機でトラフィック強化策を実行。



収益性改善策を
着実かつ機動的に
実行

- ❖ 価格改定の取り組みは順調に進捗。
 - 9月に主要カテゴリー製品の価格改定を計画どおりに実施。
 - 価格改定後の出荷価格の維持・向上に注力。一連の価格改定は計画どおりに効果を創出し、収益性改善に貢献。
- ❖ 事業環境にあわせ、マーケティング投資を戦略的に実行。
 - 投資対効果を重視した販促費管理を徹底。悪天候によりROIが低下した販促費を機動的に抑制。
 - 将来の利益成長につながる取引拡大や売場獲得等への投資は継続強化。



「Vision 2030」の達成に向け、持続的成長を支える事業基盤を強化

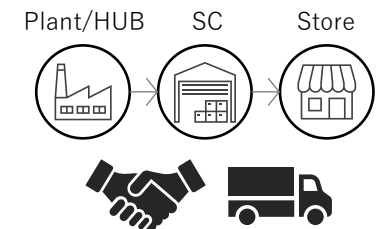
収益性改善に向けたベンディングの基盤強化

- 🔥 AI・データを活用したアソートメントシステムによる利益基準での品揃え最適化戦略を拡大。
 - これまでの実施効果をふまえ、対象自動販売機をさらに拡大。
 - システム・取り組みのさらなる精度向上にも注力。
- 🔥 高単価製品「モンスターエナジー」の展開がミックス改善に貢献。
- 🔥 利益成長につながる自動販売機の新規設置を推進。
設置先ターゲティングツールの活用により、優良ロケーションの特定と設置活動を、データに基づき効果的・効率的に実施。



利益成長を支える製造・物流体制の強化

- 🔥 機能統合型物流センター(IDC) 2拠点が、段階的に稼働開始。 製品在庫や物流拠点の集約を含めた物流ネットワークの再編に注力。
- 🔥 カスタマーとの連携による提供コストの削減や、ネットワーク全体の見直しなどによる輸送距離やタッチ数の削減が進展。
- 🔥 埼玉工場の新たなアセプティック製造ラインの稼働に向けた準備は順調。関東エリアの製造能力拡大により地産地消モデルをさらに促進するとともに、メガDCの最大活用にも貢献。



マーケティングアップデート

強力なキャンペーン・アクティベーションにより金額シェア成長を継続

コア

コーク サマーキャンペーン



コカ・コーラ ゼロ
トライアルキャンペーン



新製品

ジョージア カフェウォーター



い・ろ・は・す 天然水
400ml PET ラベルレス



体験型マーケティング

外食市場への体験価値提案施策
“コカ・コーラFoodmarks” 渋谷横丁



季節・テーマに沿ったキャンペーンで、コアカテゴリーの飲用機会を拡大

コカ・コーラ™

コカ・コーラ
ウィンターキャンペーン

コカ・コーラ
プレミアリーグキャンペーン



ジョージア™

ジョージア
クロスチャネルプロモーション



茶系

お茶製品
食卓ジャンボプロモーション



今後の見通し

通期事業利益目標350億円を必達し、株主価値のさらなる増大に向け前進

Q4以降の 取り組み および 進捗状況

利益にこだわった活動により第4四半期にも増益を果たし、通期の事業利益目標350億円の達成を目指す。

- 一連の価格改定や変革などの重点施策は、第4四半期に効果を刈り取りつつ、2027年以降の利益成長に向けた基盤固めとして、取り組みをさらに強化。
- 数量は市場をアウトパフォームし続けており、強固な成長基盤を活かした収益性重視の営業活動を継続徹底。10月の数量は、価格改定による影響を受けるも、対前年1桁%台前半の減少に収まる見通し。ケース当たり納価の改善傾向は継続。
- 中東情勢による年内の追加のコスト増加は、ヘッジ戦略により、想定内の20～40億円の見通し。重点施策と全社横断でのコスト削減でコスト増加を吸収。

株主還元のコミットメントも着実に達成。株主価値のさらなる増大に向け前進する。

- 昨年から進めてきた300億円の自己株式取得は計画どおりに完了し、このたび、700万株の自己株式消却(発行済株式総数の4.1%相当)を11月に実施する旨を新たに発表。
- 今年は、年間配当金の対前年20%の増配や、11月からの400億円の自己株式取得なども発表済みで、年間を通して株主還元拡充を達成。
- 「Vision 2030」に沿って、継続的に株主還元を拡充すべく、業績向上とあわせて、バランスシートの適正化にも取り組み、財務基盤をさらに強化していく。

- ❖ 飲料業界全体が記録的な悪天候や中東情勢の影響により、大きな逆風にさらされるなか、第3四半期も事業利益の増益というコミットメントを達成。
- ❖ 数量は、競争力向上により、市場をアウトパフォーム。一連の価格改定や変革などの重点施策が収益基盤をより強固に。
- ❖ 第4四半期もコスト増加が見込まれるも、想定内に収まる見通し。増益トレンドを継続させ、通期事業利益目標350億円の達成を目指す。
- ❖ 2027年以降の利益成長に向け、収益基盤のさらなる強化や成長投資にも取り組む。

**「Vision 2030」の重要な初年度に、
業績向上と株主還元拡充を達成するとともに、
2027年以降の利益成長に向け基盤を強化**



コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社 IR部

ir@ccbj.co.jp

<https://www.ccbj-holdings.com/ir/>

ハッピーなひとときを
ボトルから。
We bottle happy moments.

Coca-Cola
BOTTLERS JAPAN HOLDINGS INC.

参考資料

第3四半期（7-9月）業績（対前年）

単位：百万円

	2026年 第3四半期 実績	2025年 第3四半期 実績	増減	前年比
売上収益	250,744	265,581	-14,837	-5.6%
販売数量（百万ケース）	142	151	-9	-5.8%
うち、清涼飲料販売数量（百万ケース）	141	150	-9	-5.7%
売上原価	136,739	143,038	-6,299	-4.4%
売上総利益	114,005	122,543	-8,538	-7.0%
販管費	89,860	99,616	-9,757	-9.8%
事業利益	24,186	22,924	+1,262	+5.5%
営業利益	24,677	22,109	+2,568	+11.6%
親会社の所有者に帰属する当期利益	14,845	17,158	-2,313	-13.5%
EBITDA※	31,947	31,433	+514	+1.6%

※ EBITDA=事業利益+減価償却費

第3四半期（7-9月）セグメント別業績（対前年）

単位：百万円

	2026年 第3四半期 実績	2025年 第3四半期 実績	増減	前年比
販売数量（百万ケース）※1	142	151	-9	-5.8%
うち、ベンディング事業	29	32	-3	-8.3%
うち、OTC事業※2	93	99	-6	-6.1%
うち、フードサービス事業	20	20	-0	-0.5%
売上収益				
ベンディング事業	107,364	116,036	-8,671	-7.5%
OTC事業	121,506	127,087	-5,581	-4.4%
フードサービス事業	13,461	13,468	-7	-0.1%
その他※3	8,414	8,991	-577	-6.4%
合計	250,744	265,581	-14,837	-5.6%
セグメント利益※4（△損失）				
ベンディング事業	9,487	9,699	-211	-2.2%
OTC事業	21,550	19,475	+2,075	+10.7%
フードサービス事業	2,976	3,493	-517	-14.8%
その他※5	△9,827	△9,742	-85	-
合計	24,186	22,924	+1,262	+5.5%

※1 販売数量は、コカ・コーラ社製品（一部例外を除く）を対象に集計しており、当社の子会社が販売する他社製品の数量等は含まれておりません。

※2 スーパーマーケット、ドラッグストア・量販店、コンビニエンスストア、オンライン等のOTC（手売り）チャネルにおける事業のこと。また、アルコール飲料を含んでおります。

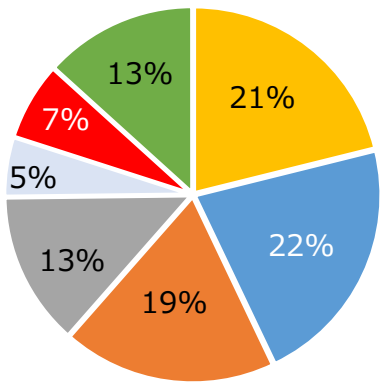
※3 報告セグメントに帰属しない事業活動から生じた売上収益を表示しており、国内の他のコカ・コーラボトラー社への販売取引等が含まれております。

※4 セグメント利益の合計は、連結損益計算書の事業利益と一致しております。 ※5 報告セグメントに帰属しない事業活動から生じた利益および本社等共通費が含まれております。

清涼飲料チャネル/カテゴリー/パッケージ別販売数量（対前年）

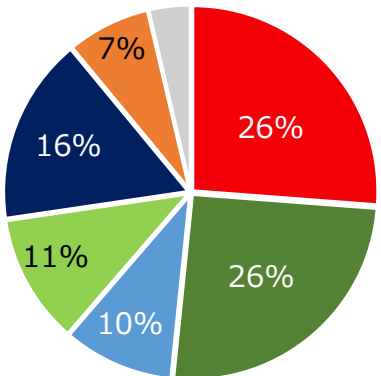
第3四半期（7-9月）販売数量：-6%

チャネル別



チャネル	数量	ケース当たり 納価(円)
ベンディング (VM)	-8%	+22
スーパーマーケット (SM)	-9%	+27
ドラッグストア・量販店 (D&D)	-5%	+38
コンビニエンスストア (CVS)	-8%	+63
リテール	前年並み	+70
オンライン	+1%	-22
フードサービス (FS)	前年並み	+35

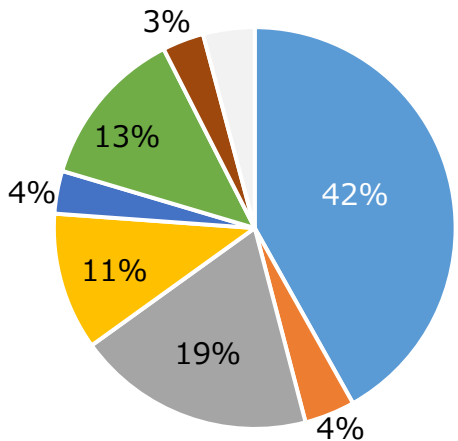
カテゴリー別



カテゴリー	数量
炭酸	-5%
茶系	-1%
スポーツ	-22%
水	-7%
コーヒー	-2%
果汁	前年並み

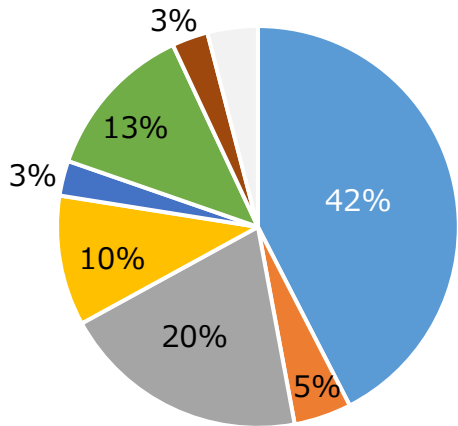
パッケージ別

第3四半期累計（1-9月）



パッケージ	数量
S-PET	-1%
M-PET	+12%
L-PET	-4%
缶	-1%
ボトル缶	-18%
シロップ	+6%
パウダー	-1%

第3四半期（7-9月）



パッケージ	数量
S-PET	-6%
M-PET	+11%
L-PET	-11%
缶	-6%
ボトル缶	-9%
シロップ	-1%
パウダー	-5%

S-PET：700ml以下 / L-PET：1.5L以上

（注）販売数量にはアルコール飲料は含まれておりません。ケース当たり納価にはIFRS適用による売上控除は含まれておりません。また、VMのケース当たり納価は、子会社等への卸販売分を除いて算出しております。
販売数量・売上集計方法の標準化を進めており、過去の説明会資料で提供したデータと若干の相違が発生することがあります。

第3四半期におけるESGおよび人的資本の取り組み

ESG

人的資本

地域社会

マテリアリティ：①地域社会発展への貢献

地域社会への支援と連携

重点施策

1) 熊本地震の被災地支援：

2026年7月の熊本地震を受け、被災地への緊急支援を実施し、**地域社会へのコミットメントとレジリエンス強化**に貢献。被災地に向けて「い・ろ・は・す 天然水」を含め、合計約12万7000本の飲料製品を提供。

2) 地域エンゲージメント強化と社員ボランティアの推進：

日本コカ・コーラとともに熊本ネイチャーポジティブサミットに登壇し、850名超の企業・地域関係者に**ESGの取り組みを発信**するとともに**社員ボランティアの地域参画**を推進。

3) フードバンクとの10年の連携：

10年にわたる食品ロス削減活動が評価され、環境省・消費者庁主催「令和8年度食品ロス削減推進表彰委員長賞」を受賞。10年の継続した活動により地域の**社会課題解決への貢献とコスト削減**を両立。

GLOBAL NATURE POSITIVE SUMMIT 2026 KUMAMOTO JAPAN



フードバンクとの10年の連携

重要関連指標に対する進捗：CSV Goals

	実績※1	2030目標
社員の社会貢献活動参加率	26%	20%以上
フードバンクへの製品寄贈率（都道府県別）	53%	75%

■ 外部評価獲得：FTSE4Good Index Series、FTSE JPX Blossom Japan Index および FTSE JPX Blossom Japan Sector Relative Index に連続選定

人

マテリアリティ：①人材の育成とウェルビーイング
②ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン

次世代人材育成の推進と多様な人材の活躍を支える環境づくり

重点施策

1) 次世代人材：

女性管理職のパイプライン強化と活躍機会の拡大に向け、選抜した女性リーダーの育成状況を役員会議でレビュー。

2) ウェルビーイング推進：

現場で働く社員の安全と健康を守るため、熱中症対策を強化。法令対応に加え、飲料・ファン付ベスト・日よけキャップの配付、スポットクーラーの設置などの予防策を、協力会社社員も含め展開。

3) DE&I推進：

多様性への理解促進を通じ、インクルーシブな社会を実現するため、ファミリーマート、ReBitと協働し、中学生向けに「LGBTQ+と教育」の出前授業を実施。

4) DE&I推進：

次世代の理系人材の育成とロールモデル創出を目的に、女子中高生向け企業ツアー「Girls Meet STEM 2026※2」を多摩工場で開催。



熱中症対策グッズ



3団体協働による出前授業



女子中高生を対象とした企業ツアー「Girls Meet STEM 2026」

重要関連指標に対する進捗：CSV Goals

	実績※3	2030目標
女性管理職比率	11.8%	20%
有給休暇取得率	58.9%※4	70%



ハッピーなひとときを、
ボトルから。

安全・安心な 1 本をつくり続けたい。

あらゆるシーンで新しいおいしさやハッピーなひとときを届け、
価値を創造し、限りある資源を大切に、次のつくるにつなげたい。

多様な人材が力を合わせ、さまざまな変革を起こすことで、
あふれるほどのハッピーを生み出し、
豊かな生活に貢献できると信じています。

人と地域社会と自然環境に寄り添う仕事をしている誇りと使命を胸に、
今日も私たちは走り続けます。



将来の業績に関する見通しについて

本資料に記載の事業計画、業績予想、および事業戦略は、本資料配布時点での情報を考慮した上でのコカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社（以下CCBJHまたは当社）経営陣の仮定および判断に基づくものです。これらの予想は、以下のリスクや不確定要因により、実際の業績と大きく異なる可能性があることに留意してください。

なお、リスクおよび不確定要因は以下のものに限られるものではありません。CCBJHの有価証券報告書等にも記載されていますので、ご参照ください。

- ザ コカ・コーラ カンパニーおよび日本コカ・コーラ株式会社との契約
- 製品の品質・安全性
- 市場競争
- 天候、災害、水資源等の自然環境
- 法規制
- 情報漏えい・消失
- 個人消費動向、為替レート、原材料費、保有資産等の時価等、経済状況の変化による影響
- 経営統合、業務プロセスの効率化・最適化による影響
- 上記以外の不確定要因

本資料の情報は、情報の提供を目的としており、CCBJH発行の証券への投資勧誘を目的するものではありません。

また、CCBJHは新しい情報あるいは将来のイベントにより、本資料の内容を更新する義務を負いません。みなさまにおかれましては、CCBJH発行の証券に投資する前に、ご自身の独立した調査に基づいて判断をお願いいたします。